

広島広域都市圏の発展を見据えた都心づくりについて

広島市は、広島広域都市圏ひいては中四国地方の発展をけん引していく中枢都市として、圏域全体の経済活力とにぎわいの創出、高次都市機能の整備に積極的に取り組んでいる。市域においては、「デルタ市街地」、「デルタ周辺部」、「中山間地・島しょ部」という三つのエリアを設定し、エリアごとの特色、都市的魅力・自然的魅力を一層引き立て、圏域内の誰もが容易にそれらを楽しむことができるまちづくりに取り組んでいる。また、ヒト・モノ・カネ・情報の好循環を生むために、「公共交通を中心とした四つの循環」(「バスによる循環」、「路面電車による循環」、「西風新都内の循環」、「西風新都・デルタ間の循環」)の形成に取り組んでいる。こうした中、「デルタ市街地」に位置する都心は、市民はもとより、国内外から多くの人を惹きつけ、活力とにぎわいを生み出す中心的な役割を担っている。

広島広域都市圏



広島広域都市圏発展ビジョン【平成 28 年 3 月】

【広島広域都市圏の将来像―200万人広島都市圏構想―】
 広島市の都心部からおおむね60kmの圏内にある24市町が“都市連盟”とも言うべき強固な信頼関係を基盤として、地域の資源を圏域全体でいかす様々な施策を展開することで、圏域経済の活性化と圏域内人口200万人超の維持を目指す「200万人広島都市圏構想」の実現を図る。

誰もが“住み続けたい”“住んでみたい”広島広域都市圏

《目指す三つの側面からの圏域の将来像》

経済面：ヒト・モノ・カネ・情報が巡る都市圏

圏域内のヒト・モノ・カネ・情報に加え、圏域外から呼び込んだそれらが、圏域内で「循環」する「ローカル経済圏」を構築し、経済活力とにぎわいに満ちた圏域を形成

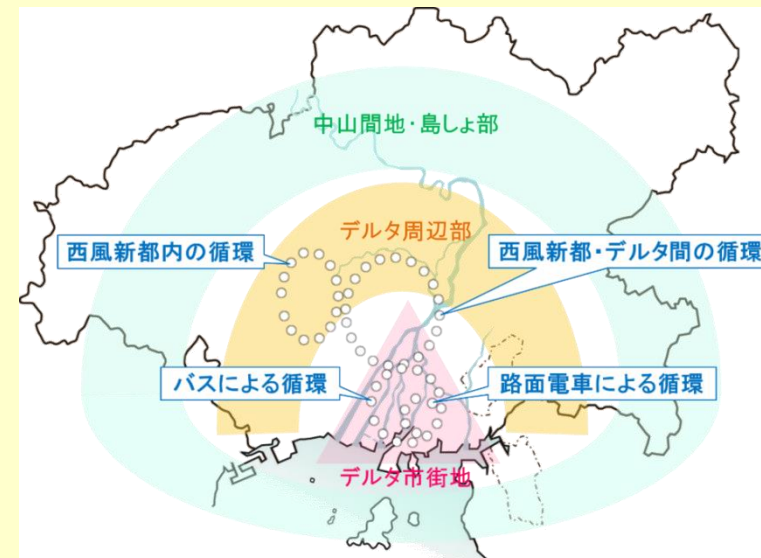
生活面：どこに住んでも安心して暮らしやすい都市圏

圏域の中心に医療等の高次都市機能を備え、充実した広域公共交通網により圏域内住民が利用しやすい環境を整えることで、高次都市機能を容易に享受できる圏域を形成

行政面：住民満足度が高い行政サービスを展開できる都市圏

施策の共同実施や行政資源の相互利用、広島市による行政サービスの補完等を通じ、効率化を図りつつ利便性を高め、圏域内住民のニーズに市町が連携して応えられる圏域を形成

広島市域



「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略【平成 28 年 3 月】

【基本目標】

1. 中四国地方のエンジンにふさわしい都市機能の充実強化
2. すべての人にとっての“ディーセント・ワーク”の創出
3. 子どもと子育てに優しいまちの実現に向けた切れ目のない支援
4. 誰もが住みたくするまちに、まちの安心とブランド力の向上

【施策（抜粋）】

- “循環が活気をもたらすまち”の構築

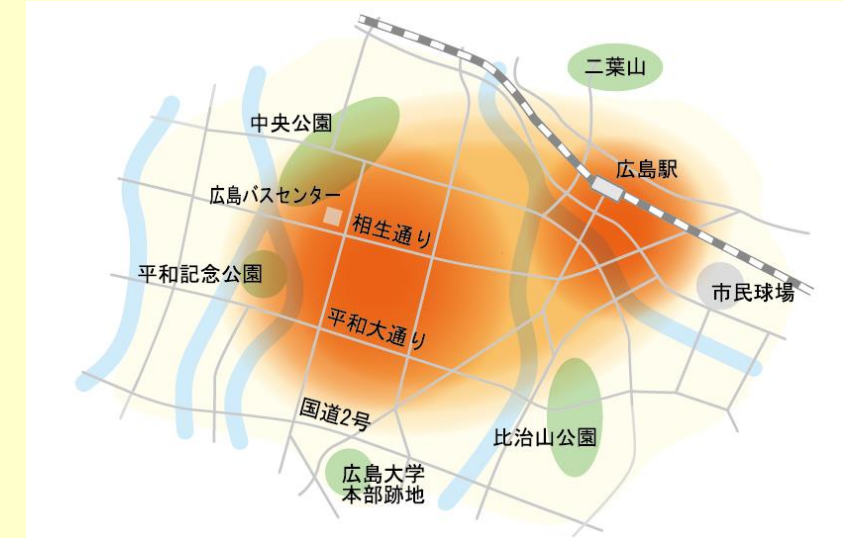
《都市構造を踏まえたまちづくりと「四つの循環」の形成》

本市が持つ地理的特徴を、いかに発展に結び付けていくかに視点を置き、太田川とその支流からなる三角州「デルタ市街地」と、それを取り囲む「デルタ周辺部」、さらに外側にある「中山間地・島しょ部」という三つのエリアを設定し、具体的な活性化策を推進する。

三つのエリアごとの特色、そして都市的魅力や自然的魅力を一層引き立て、圏域内の誰もが容易にそれらを楽しむことができる「まち」づくりに取り組む。

「デルタ市街地」と「デルタ周辺部」において、「バスによる循環」や「路面電車による循環」、「西風新都内の循環」、「西風新都・デルタ間の循環」という、四つの循環を形成することで、ヒト・モノ・カネ・情報の好循環を生み出す。

都心



都心活性化プラン(仮称)【策定中】

【都心の将来像(案)】

誰もが集える、にぎわいと交流のまち
 ～多様な主体が平和と文化の架け橋となり、国内外から人を惹きつけ、世界に広島を発信する～

【目指す姿(案)】

- ・ にぎわいと交流を生み出す
- ・ 往来しやすく回遊できる
- ・ 安全・安心で快適に生活できる

施策の方向性(案)

1. 中四国地方の中枢都市にふさわしい空間づくり
2. 国内外から人を惹きつける広島ならではの魅力づくり
3. 世界中から訪れる人にやさしい交通環境づくり
4. 安全・安心で平和な生活を支える環境づくり